

主体的に学び合い、夢に向かって心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成

越前市吉野小学校

## 1. はじめに－「1人1台端末（タブレット）の効果的な活用に向けて」－

本年度は学校教育目標を「主体的に学び合い、夢に向かって心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成」とした。目標を達成するために①基礎的、基本的な知識や技能を確実に定着させる授業づくり、②身に付けた知識や技能を生かし、主体的に課題を見付け、試行錯誤しながら協同的に解決していく力を育み授業づくりに取り組むことにした。

また、昨年度よりタブレットを授業の中でどう活用していくかについて研究を進めてきた。昨年度は、「とにかく使ってみること」をめざし、実践を多く積み重ねていくことに取り組んだ。その結果、多くの実践を振り返る中で、活用は効果的だったのかという反省につながった。

そこで今年度は、昨年の実践を踏まえつつ、より効果的なタブレットの活用について考え、授業づくりを進めてきた。児童が教員から学ぶ学習から子ども同士で学び合う学習をめざすこととした。

## 2. 主な実践例

### (1) 1年国語科「じどう車くらべ」

『じどう車くらべ』は、4種類の自動車について、その自動車が行う「しごと」と、そのために備えられた「つくり」を読み取る説明的文章である。ここでの主な学習活動は、文章の中から「しごと」と「つくり」を読み取ることである。

タブレット導入前は、紙の教科書に線を引く学習活動を行っていた。今回はアプリ「メタモジ」上で教科書本文に線を引く活動を取り入れた。1年生と言うことで直線を引くことに苦手意識を持つ児童もいる。アプリの機能を使えば線の引き直しなどを容易にすることができ、試行錯誤できるという点で児童の考えの深まりが期待できた。またアプリの共有機能を活用して児童の考えが共有しやすいようにした。

低学年はWindowsタブレットを使うということで、一人一台になるように他の学級と授業を調整したりICT支援員と連携したりと活用までに時間がかかった。しかしながら楽しそうに「しごと」と「つくり」を考えながら教科書本文に線を引く児童の姿があった。間違えてもすぐに直すことができる、自分の考えたことがすぐに他の子に分かるなどのタブレットのよさを児童自身が感じ、学習に意欲的に取り組めた。



また一人で線を引く活動から引いた線について画面を共有しながら考える活動を設定したことで一人一人の学びがつながり学び合いになっており、児童がタブレットを操作する難しさはあるものの、それ以上の活用の効果があった。

## (2) 3年理科「音を出して調べよう」

理科の学習では、問題に対して仮説を立てそれを確かめるために実験や観察をどうすればよいかを考え、そこから得られたものを元にして問題を解決していくことを大切にしたい。そのためにタブレットを活用することとした。実験は児童にとっては楽しいものであり興味を持って取り組むことができる。しかしながら実験によって現象を注意深く観察することが不自由なため、考察の段階で活動が止まってしまう児童がいる。



実験をもう一度繰り返すことは時間的に難しいので実験の様子をタブレットにて動画撮影することとした。トライアングルを鳴らして水につける様子などを撮影することにより、実験を何度も見返すことができる。加えて音の振動の微細な様子も見ることができ、振動についてより理解を深めることができる。また、撮影に真剣に取り組むことでより実験を真剣に見ることもつながったようだ。

## (3) 5年体育科「表現運動」

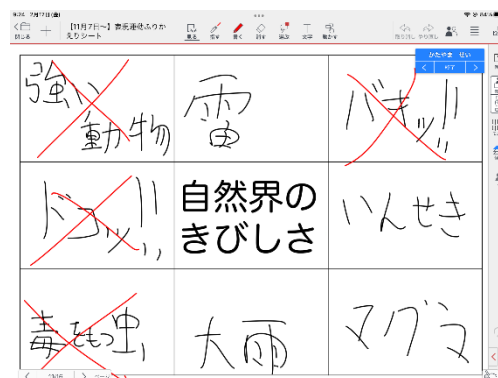
表現運動で、様々なイメージを膨らませて即興表現ができるようにすることが大切と考えた。また児童が自分たちの表現を振り返り次はどうするかを考える場面を設定することで、よりよい表現につなげようと意図した。そして、児童同士が認め合う場をもつことで学び合いの学習になるようにした。

そのために①思考ツール「イメージマップ」を作成する、②児童の表現活動をビデオで撮影しアプリ「メタモジ」上に貼り付けて振り返りに活用する、③「メタモジ」の「みんなが見られる機能」を活用し、児童同士が評価できるようにする、以上3点でタブレットを活用することとした。

①については、イメージマップを作成することによりイメージを膨らませることができ、グループ内での話し合いに活用していたグループが多かった。

②については、何度も見返すことにより自分たちの表現活動のよさに気付くのはもちろん、他のグループの表現を見て、自グループの表現に生かす児童もいた。加えてタブレットを自宅に持ち帰っているのので、学習の様子をお家の方に見せた児童もいた。

③については、自己評価だけで終わりがちな体育のワークシートが児童同士の相互評価を取り入れたことで自分のよさを認めてもらえ自信をもって学習に取り組めた。タブレットの活用を進める中で児童の中から「アイデアを考えるときに白紙のページを使ってもいいですか。」や「個別のページをグループ学習ページにしてください。」などの声があった。児童がよりタブレットを活用し学習を深めようとする姿があった。



## 3. おわりにータブレット活用から見てきたものー

昨年度から授業におけるタブレットの活用をめざしてきた。昨年度は指導者側が学習指導のツールとしてタブレットを活用する場面が多かったが、今年度は児童が学習のツールとして自分の考えを深める場面や児童同士が意見を交換する場面での活用が増えてきた。児童の効果的な活用が増え、児童がタブレット活用のよさに気づき始めてきた一年だった。